第３学年○組　道徳指導案

日時　　平成28年10月20日(木)第　限

場所　　　　教室

授業者

１　主題名　　人権尊重（Ｃ-(11)内容項目　公正、公平、社会正義）

２　教材名　　同和問題から差別意識について考える

　　　　　　　　　　（『開け心が窓ならば』黒田清　大谷昭宏・著　角川文庫より）

３　主題設定の理由

（１）価値観

　　差別や偏見はよくないと一般的にわかってはいても、知らず知らずのうちに差別する側でいることになっていることの怖さを知ることは大切なことである。中学３年生にとって就職や結婚はいずれ訪れる人生の大きな転機である。その折に不当な差別が存在していることを知らないまま大人になっていくことは、次の世代へ差別や偏見を先送りし、いわれなき差別を撤廃する啓発へとつながっていかない。だから、新しい社会に飛び出す半年前のこの時期に、そういう差別を受け苦しむ人の思いに触れることは価値あるものと考える。

（２）生徒観

　　本学級の男子生徒は、陽気で活発なリーダーのもと、明るい雰囲気で学習に臨む生徒が多い。いっぽう女子生徒は人数も少ないせいかおとなしく、授業中、積極的に考えを述べていこうという雰囲気に欠ける面が見られる。今回の主題はやや重厚なものであるので、導入部では肩の力を抜いて学習に入り、男女問わず自分の結婚観を述べさせたい。また、資料は女性の新聞投書がもとになっているものなので、女子生徒がいつもより積極的に意見を発表できるのではないかと考える。

（３）教材観

　　結婚を考えていた相手から「部落出身」ということを理由に一方的に別れを告げられ、自殺未遂ののち、さらにお見合いでも同じ理由で断られた経験をつづった女性の新聞投書が今回の教材である。世の中にこんな不当な差別があることを知らず、これまで過ごしてきている生徒が大半なので、与えられる衝撃は大きいと思われる。一方で、実際の新聞の投書がもとになっているので、現実と乖離してしまうことなく自分たちにも起こりうる可能性のある問題としてとらえられるであろう。生徒が投書の女性の苦しみに寄り添い、差別や偏見のない社会を構成する一員としての自覚を促すきっかけとしたい。

４　本時のねらい

・ある新聞投書をもとに、同和問題について知り、考える活動を通して、差別や偏見をなくし、人権を尊重していこうとする態度を育てる。

５　準備

　　　新聞投書（資料①②③）、ワークシート

